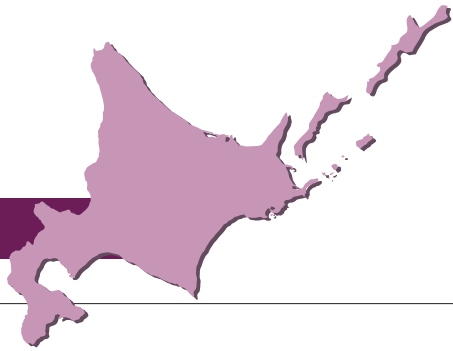
# 8月の道内景況　情報連絡員レポート

## 一転して売上高が大きく改善　景況、収益状況も回復傾向



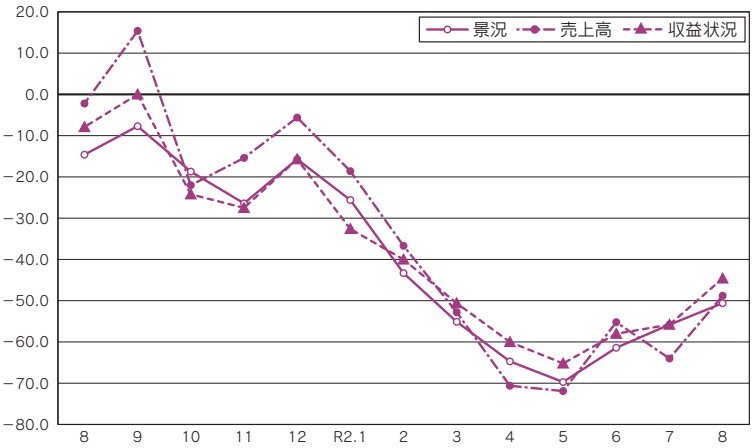
### 概　況

主要DIの推移では、「売上高」が大幅な改善に転じ、「景況」「収益状況」も前月から引き続き若干改善した。

業種別に見た前月との比較では、製造業は「景況」「収益状況」で若干落ち込んだが、「売上高」「販売価格」「取引条件」「資金繰り」「雇用人員」は小幅ながら回復した。

非製造業では「販売価格」「雇用人員」を除く全ての項目で回復が見られ、特に「売上高」「収益状況」が大きく改善した。

主要 DI の推移




### 景況天気図（前年同月比）

| | 全業種 | | | 製造業 | | | 非製造業 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 7月 | 8月 | 前月比 | 7月 | 8月 | 前月比 | 7月 | 8月 | 前月比 |
| 業界の景況 | △55.8 | △50.6 | 5.2 ↗ | △53.3 | △54.8 | △1.5 ↘ | △57.1 | △48.1 | 9.0 ↗ |
| 売上高 | △64.0 | △47.1 | 16.9 ↗ | △53.3 | △45.2 | 8.2 ↗ | △69.6 | △48.1 | 21.5 ↗ |
| 収益状況 | △55.8 | △44.7 | 11.1 ↗ | △43.3 | △45.2 | △1.8 ↘ | △62.5 | △44.4 | 18.1 ↗ |
| 販売価格 | △12.8 | △11.8 | 1.0 ↗ | △16.7 | △12.9 | 3.8 ↗ | △10.7 | △11.1 | △0.4 ↘ |
| 取引条件 | △20.9 | △16.5 | 4.5 ↗ | △16.7 | △9.7 | 7.0 ↗ | △23.2 | △20.4 | 2.8 ↗ |
| 資金繰り | △30.2 | △24.7 | 5.5 ↗ | △30.0 | △22.6 | 7.4 ↗ | △30.4 | △25.9 | 4.4 ↗ |
| 雇用人員 | △16.3 | △18.8 | △2.5 ↘ | △10.0 | △6.5 | 3.5 ↗ | △19.6 | △25.9 | △6.3 ↘ |

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

**天気図の見方**　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（DI）をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

## 製造業

・観光客及び外食産業向けの需要が依然戻らない状況。（水産食料品／全道）
・ホタテ等の輸出が低迷している。（水産食料品／網走）
・7月単月の出荷量は味噌・醤油ともに前年比減。コロナの影響が更に長引くようであれば、業務用味噌・業務用醤油の取扱い比率が高い企業ほど一層厳しい状況になると思われる。（味噌・醤油／全道）
・8月は例年より残暑が厳しく長期化したことから、飲料水の売上増加の追い風になるかと期待されたが、コロナの第2波により人の動きが制限される中、GoTo トラベルの不発、お盆商戦の低迷、夏のイベント等の中止・縮小を受けて販売の伸びは今一つだった。（飲料／全道）
・製材市況は、カラマツ、エゾ・トドマツいずれも弱保合。原木市況は、カラマツは弱保合、エゾ・トドマツは保合。カラマツ原木、エゾ・トドマツ原木ともに先月から在庫を多く抱えている。製材については、梱包材やパレットの受注がなく非常に荷動きが悪い。原木価格も弱含み。製品受注では、DIY 用の製材受注が旺盛な模様。桟木は動きがない。紙需要の落ち込みを受けて紙原料の動きが鈍くなっている。木質バイオマス原料の動きにも陰りが出始めている。（一般製材／全道）
・コロナの影響による受注減は変わらず、生産調整で7割稼働が続いている。（一般製材／中川郡）
・コロナによる自粛ムードでイベントやスーパー等の売り出しが激減し、厳しい経営状況が続いている。（印刷・同関連業印刷／札幌）
・8月の生コン出荷量は前年同月比105.5%の約322千$m^3$。地域別には、前年同月を上回った分会（協組）は29分会（協組）中13分会（協組）。前年同月比で増加したのは千歳地区、苫小牧、札幌など。一方、減少したのは釧路、後志、宗谷などだった。（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
・函館地域では新幹線工事による砂利需要増加を受けて売上増となった。コロナの影響はほぼないが、人件費・輸送費などの経費が増加しており収益確保に繋がらない。砂や砂利などの原石不足が課題であり、今後の事業継続に不安がある。（窯業・土石製品製造業／全道・砂利）
・工事延期の現場が出始めており、それに伴い価格競争は激しくなると考えられ、今後の事業継続への不安が非常に高まっている。（窯業・土石製品製造業／全道・ガラス）
・公共材はある程度回復してきたが、自動車、建機は前年同月を大きく下回る。特に自動車は業界の構造変化に拍車がかかってきている。7月末の大雨による山形県の河川氾濫で、鋳物砂メーカーの操業が停止するなど、一時は砂の供給が危ぶまれたが、メーカーの迅速な復旧対応により特段の混乱は避けられた。（銑鉄鋳物／全道）
・コロナの影響で新造船の発注低迷が続いている。手持ち工事量の減少に伴い、工場の操業調整が10月頃から実施される予定で検討されている。（金属製品／室蘭）
・比較的長い盆休みの影響もあり、全体的に低調と思われる。（金属機械工作／札幌）

## 非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・靴履物ではシニア層がコロナを忌避し巣ごもり状態になっていることで外出用の商品が低迷した。需要そのものが低下している中で低価格かつ簡易な商品が主体となり、業況は7月より悪化している。生活雑貨ではマスクの着用、活動自粛の影響で化粧品の需要が大幅に低下した一方、家庭内消費の増加により、スーパー等が取り扱う一般消費者向け生活雑貨、酒類、冷凍食品、DIY 商品等は好調。個人向けは順調だが業務用は苦戦している。組合の展示場・貸会議室は6月から一般の受付を再開し、定員の50%収容を基準として運用している。一時の開店休業状態からは脱却したが、東京・大阪等大都市のコロナが収束しないため利用状況は低迷している。（各種商品／札幌）
・キャッシュレス化とコロナの影響で少額でもクレジット決済が増え、決済件数は増加しているが、昨年は消費税増税前の駆け込み需要で大型家電等の売上が好調だったため、昨年と比較すると金額面では減少した。業種では飲食店・観光業の売上減少が続いており、閉店する飲食店が増えている。収益では取引条件の低減化とキャッシングの大幅な減少により悪化した。（各種商品／旭川）
・GoTo トラベルにより観光客は増加したが、コロナを敬遠してお盆の集まりを避ける傾向があるのか、地元客による大量購入がない。（各種商品／小樽）
・8月取扱高は前年比93%。コロナの影響か、近頃飲食店等で営業譲渡する店舗が数店発生している。プレミアム商品券や GoTo キャンペーンで徐々に買い物客が戻りつつある状況に今後期待したい。（各種商品／苫小牧）
・売上高対前年比106%。コーヒー等の嗜好品を中心に回復しつつある。（野菜・果実／札幌）
・先月同様、コロナの影響で外国人観光客の来店は皆無。国内ツアーもほぼ無かったが、お盆時期は一時的に賑わいを取り戻した。平日は依然厳しい状況が続くものの、「和商の日」開催時には地元客が来店し賑わった。（鮮魚／釧路）
・様々なキャンペーン施策もあまり効果を感じられていない。お盆商戦も人の動きがなく、観光・土産品は売上が立たず9月以後かなり厳しくなると思われる。今年はサンマの漁獲が少ないため、これからの秋鮭の水揚げ量次第で水産の売上・利益が変化する。（各種食料品／札幌）
・原油価格が高騰基調で推移し卸価格が上がったにも関わらず、依然末端市場では価格競争の激化が続き、特に激戦地の安値市況が広範囲に拡大していることが中小零細企業の経営を圧迫している。店頭マージンの低位安定が続いており、低燃費車に乗り換えた顧客が一層目立つようになったこと等もあり、危機感をあらわにする販売業者も多く見受けられる。廃業・撤退の選択を迫られる地元業者も増加し、特に相当年経過した地下タンクを保有している事業者は、後継者問題、従業員の雇用問題等を含め、厳しい選択を迫られている状況が窺える。（燃料／全道）
・8月1ヶ月限定で東京からの航空便が運行され、観光客、帰省客数は前月より増加したが、道内の夏休み、お盆帰省客は大幅に減少し、例年通りの入込には全く及ばない。管内全体の経済は当業界及び観光業を中心に大変苦しい状態が続いている。（燃料小売業／稚内）
・8月の卸値は初旬の値上げ改定で推移。小売店の販売価格も上方修正で推移したが収支状況では従来と同じく量販店の安値攻勢により厳しい利益口銭に圧縮、更にコロナの影響で販売量の減が戻らず収益も落としている。（燃料小売業／旭川）
・製品の販売数は低下しているものの、修理サービスで売上を伸ばしている状況。全体として売上は前年比90%で推移した。（農業用機械器具／全道）
・小売の販売台数は全般的に好調だが、新車の納車遅れ等で商品車の仕入れに苦労している。（中古自動車／札幌）
・地元百貨店の7月売上高は6月セールの反動減で前年同月比15.7%減の3億4千万円。市内大型店5店の7月売上高は、前年同月比5.4%減の15億600万円、スーパー3社の7月売上高は、前年同月比2.6%増の33億1,500万円。来店頻度は減少したが、買い上げ点数が増加した。8月共通駐車券の利用は前年同月比79.7%、買物共通バス券は前年同月比63.8%に減少。コロナの影響で依然厳しい状況が続く。（帯広市・商店街／帯広）
・宿泊者数は前月よりも増加したが、全体で前年比5割程度の宿泊実績に留まる。国内外の集客がほぼないため平日予約が入らない状況。GoTo トラベルにおいても、観光客が旅行をしなくては事業者に金は入らない。選ばれる地域、選ばれる施設ならば売上回復につながるが、一方で限られた地域内での集客に苦労する施設もある。そうした事業者への支援を厚くしなければ大変厳しい状況は今後も続き、全体の回復には時間もかかると感じる。（旅館／音更）
・利用者は少しずつ増加している。今後も営業者・利用者双方の安全と健康管理に十分留意し営業していくことが必要と感じている。（公衆浴場／全道）
・コロナの逆風が吹く業種・業界は収益や手元資金の確保を優先するために IT 投資を中断・延期せざるを得ず、逆に、事業の変革を進めて競争力を強めるために、IT を活用してビジネスモデルを再構築する企業や業界ほど、DX への IT 投資を加速させて、コロナ下でも業績や企業価値を高めている。その影響は道内の中小 IT 企業の50%以上を占めるシステム開発受託企業にも及び、IT 投資が旺盛な業界が発注元の IT 企業ほど収益が堅調に伸びている。今後は企業のあらゆる事業分野でデジタル化が確実に進むことから、システム開発の受託需要が増加することは間違いない。コロナの影響で来春大卒者の採用計画を中断・中止する動きがある中、道内の中堅 IT 企業へ就活する学生が増加している。AI 技術の開発や IoT、5G 等、システム開発が不可避となる企業の積極的な IT 投資が今後確実に増大することが、IT 業界への就活の活発化につながっていると思われる。昨年とは真逆の買い手市場になっているようだ。採用側にとっては良い人材を確保できるチャンスになるとの嬉しい声も聞こえる。（ソフトウェア／全道）

## 非製造業（建設・運輸業）

・コロナにより遅延していた工事と元々の施工計画通り進めている工事が重なり、多くの事業所で人手不足が見られる。（左官工事／全道）
・公共事業のうち個別排水合併浄化槽は下水道処理区域外での住宅建設がないため、時期的に発注がない可能性がある。（管工事／名寄）
・食品、慶弔、イベント関係を除き、コロナによる売上減は回復傾向にある。宅配荷物の増量を受けて売上高は昨年並みに回復した。（一般貨物自動車運送／全道）
・農産物の生育はおおむね良好。本州の猛暑の影響で軟弱野菜の市況が良く、出荷状況も順調である。一般雑貨や日用品は昨年並みの動きだが、それ以外についてはいまだコロナの影響を受けている。8月に入り暑い日が続き、飲料関係の動きが活発化してきたが、全般的にはコロナの影響により前年比減少傾向にある。（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は前年同月比28.6%減少。乗務員数は前年同月比6.8%減少。7月分チケット取扱高は前年同月比23.6%減少。（一般乗用旅客／旭川）